①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・何時，何時半（30分）という時計のよみ方を学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・物を数える時，5，10，15…と5のまとまりで数える学習をしている。

教材研究ノート№,1-C-3

げこうじこく

≪学習問題≫

げこうじこくは，なん時なん分

なのかな。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 何分を知るには，どこに目をつければいいのかな。

→長針が6を指しているときは，30分と読んだ。

②学習課題:長針が6を指すときは30分であることから，長針が10を指すと何分か，目盛りの読み方を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:長針が10を指すときは何分か，読み方を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「（50分であることを確認）どのように読んだか説明しよう。」

→「6→30分だから1→5分，2→10分…。1目盛りは1分。」

④共同追究後半（思考を深める）

「短針は，4の方に近いけど3時と読んでいいのかな？」

→「10分たつと4時。4時になる前だから3時何分になる。」

「短針は3時と4時の間の時，長針が次に12を指すまでは，3時何分と読む。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・何分かを知るには長針の指す目盛りを読む。1目盛りは1分で，数字の1のところが5分，2のところが10分…である。

・短針が間にある時は，小さい方の数を読む。

⑥定着･活用問題

(1)7時20分や　11時43分をつくりましょう。

(2)よめるかな。

①　　　　　　　　②　　　　　　　　③

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・時計のよみ方については，子どもの生活経験の差が大きいので子どもの生活と結びつけながら丁寧に指導したい。

・問題提示するときには，子どもが理解している3時30分の読み方を確認し，そこから長針を動かす形で時刻を示したい。

・3時50分などの時，短針は4を指していると思っている子どももいるので，時計の模型を動かす場を設け針の動きを観察させたい。

【板書計画】